

近代日仏文化交流と満洲の実情を活写する第一級資料。

BRUNNEN

APON

●監修・解題●

和田桂子 清泉女子大学教授

全7巻

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBOU

監修の言葉

清泉女子大学教授

和田桂子

このたび日仏文化交流誌『FRANCE-JAPON』全49号を復刻・監修する機会に恵まれた。日本には全号揃っておらず、パリのコレージュ・ド・フランスの協力を得て全号を復刻することができた。10年ほど前に日本人とパリについて調べはじめた頃から気になっていた雑誌である。フランス語で書かれた月刊情報誌で、発行元は日仏同志会。ぱらぱらとめくると、満洲の記事と写真が多いことに気づく。発行所の住所はシャンゼリゼ通り136番地。満鉄パリ事務所の住所だ。創刊は1934年。日本が国際連盟を脱退した翌年である。これは一体何を意味するのか。

国連脱退後、日本のプロパガンダをどのような形で行うかは日本政府にとっての大きな課題となった。国際連盟総会日本首席全権の松岡洋右は、満鉄パリ特派員だった坂本直道をそのままパリに残らせ、読売新聞社パリ特派員の松尾邦之助を編集長に据え、満鉄の事務所と潤沢な予算をあてて『FRANCE-JAPON』を発行させた。露骨な政治宣伝はかえって不利との判断から、まずは文化面を強調した日仏親善雑誌を目指した。

目次を見ていただければわかるが、ここには与謝野晶子や萩原朔太郎らの詩、芥川龍之介や菊池寛らの小説が仏訳されているばかりではない。生け花、日本舞踊、日本の経済、そして満洲の資源、鉄道——。多種多様な文化の側面が、写真や図表とともにフランス語で提供された。フランス側執筆者にはポール・クロードルやミシェル・ルヴォンの名も見える。購読者にはアンドレ・ジッドもいた。編集には1938年から『ラ・バタイユ』の著者クロード・ファレルが、そして1939年には小松清が加わった。この奇妙な取り合わせも『FRANCE-JAPON』の魅力のひとつといえよう。

近年、満鉄の研究とともに、近代日本の対外宣伝や国際交流事業についての研究は進んでいるようだが、『FRANCE-JAPON』についてはほとんど知られていない。このたびの復刻が、日本近代史研究に小さくても重要な貢献をなすことを願う。



坂本直道
(提供：坂本寿美子)



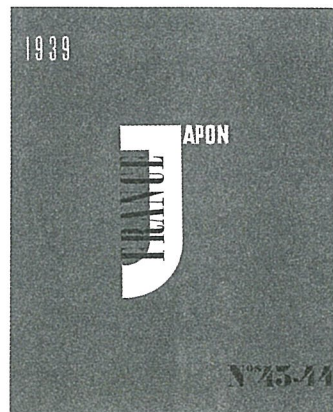
松尾邦之助

『FRANCE-JAPON』とは……

1934年10月創刊、1940年4月終刊まで全49号がパリで刊行された、日仏の文化交流を主眼としたフランス語月刊情報誌である。

読売新聞社パリ特派員の松尾邦之助と、民族史博物館員のアルフレッド・スムラーが責任編集者となり、日仏同志会より刊行された。

創刊当時、満鉄パリ特派員であった坂本直道（坂本龍馬の子孫）は、松岡洋右の命により松尾邦之助とともに編集に携わった。発行所・日仏同志会の事務所はパリのシャンゼリゼ通り136番地にあり、満鉄（南満洲鉄道株式会社）の事務所と同じ住所にあったことから分かるように、満鉄のバックアップの下、フランスの対日認識を編成すべく情報を発信した。政治的宣伝は避けて、日本文化や満洲経済事情の紹介記事、日仏両国の著名人の文章などを中心に編集を行った、日仏文化交流誌である。本誌は1940年、坂本直道が帰国するとともに終刊した。



本書を推薦します

世界と日本のつながりが模索され、 構築されてゆく過程を見る

パリ・ディドロ第七大学教授

坂井セシル

幻の雑誌、『FRANCE-JAPON』の復刻完全版がついにゆまに書房より刊行される。長年所在の分からなかった幾号かが最近パリで発掘されたことにより、この日仏交流の代表的な月刊誌の全貌が今日よみがえる。日仏同志会を発行元として、1934年10月から1940年4月まで、49号をも数えた『FRANCE-JAPON』は当時の複雑な事情を鮮やかに伝えるだけでなく、執筆陣も日仏両側から、豪華絢爛のメンバーが積極的に参加し、真剣に時勢を論じている。責任編集も日仏両側から、松尾邦之助（読売新聞社パリ特派員）とアルフレッド・スムラー（民族史博物館員）の協力により、能率的にすすめられ、外交、政治、社会、経済、文化など、さまざまなテーマを毎号扱っている。

この復刻版は、日仏交流や国際文化史に興味のある読者にとって、絶対に見逃せない貴重な資料の集成である。満鉄との関連で、植民地政策の情勢も浮き彫りになり、世界と日本のつながりが模索され、構築されてゆく過程がはっきりと見える。続き刊行される論集『満鉄と日仏文化交流誌「フランス・ジャポン」』はその関連の様々な新しい研究をまとめている。

『FRANCE-JAPON』に蓄積されたる 驚くべき情報の豊富さ

コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所長

M. Jean-Noël ROBERT

僅か6年の間に『FRANCE-JAPON』の中に蓄積された情報の豊富さは誠に驚くべきものである。松尾邦之助とアルフレッド・スムラーの二人の編集者の個性と人柄に誘引されて、当時の日仏両国の作家、画家、学者、評論家が争って投稿していた一方、満洲国・満鉄の建設を誉めそやす宣伝が目立つ。反ナチ抵抗の英雄であったスムラーの編集の下で上梓される、終戦後に自殺した作家ドリュエ・ラ・ロシェール、レジスタンスに暗殺された不吉な評判の人類学者ジョルジュ・モンタンドンの文章は読者の目を留める。また、日本人が東洋のドイツ人でなく、東洋のラテン族であることを強調して、悲劇の中に軽いユーモアを試みる随筆のあと、「検閲」の不気味な単語が点々と見える最後の年のページをめくると、凄まじい戦争へと向かう不可避な道が、ありありと窺われる。これほどの貴重な史料をようやく研究者が使用するよう復刻してくれた、ゆまに書房に深く感謝する。

本書の特色

●日本とフランスの文化交流の橋渡しとなる。

毎号、多くの日本文化が豊富な図版とともに紹介されている。

●満洲の現状、文化、風俗などが詳細に伝えられている。

満洲事変勃発後、世界の対日世論は激しくなり、対外宣伝の必要に迫られた国際連盟総会日本首席全権の松岡洋右は、本誌を創刊させ、満洲国の正当性を主張するため、満洲の実情や文化、風俗を積極的に紹介した。

●多くの日仏の文化人が本誌に足跡を残す。

【フランス側】ポール・クローデル、クロード・ファレル、ルネ・モーブラン、ミシェル・ルヴオン、ジュリアン・ヴォカンス等々。 【日本側】小松清（1939年より『FRANCE-JAPON』の編集委員に加わり、原稿を執筆）のほか、有島生馬、川端康成、島崎藤村、高浜虚子、野口米次郎、鈴木大拙などが翻訳され紹介されている。

●各巻末に監修者の解題を附す。

FRANCE-JAPON

[監修] 和田桂子 全7巻

●全7巻揃定価205,800円(本体196,000円/各本体28,000円) A4判上製/クロス装 ISBN978-4-8433-3695-3 C3321

全巻構成

2011年10月刊行

●第1巻 FRANCE-JAPON vol.1	第1号(1934年10月)~第14号(1935年11・12月)	ISBN978-4-8433-3696-0
●第2巻 FRANCE-JAPON vol.2	第15号(1936年1・2月)~第20号(1937年5・6月)	ISBN978-4-8433-3697-7
●第3巻 FRANCE-JAPON vol.3	第21号(1937年7・8月)~第24号(1937年12月)	ISBN978-4-8433-3698-4
●第4巻 FRANCE-JAPON vol.4	第25号(1938年1月)~第30号(1938年6月)	ISBN978-4-8433-3699-1
●第5巻 FRANCE-JAPON vol.5	第31号(1938年7月)~第36号(1938年12月)	ISBN978-4-8433-3700-4
●第6巻 FRANCE-JAPON vol.6	第37号(1939年1月)~第42号(1939年6月)	ISBN978-4-8433-3701-1
●第7巻 FRANCE-JAPON vol.7	第43・44号(1939年7・8月)~第49号(1940年4月)	ISBN978-4-8433-3702-8

関連企画のご案内

※詳細内容見本進呈いたします。弊社営業部までお申し付け下さい。

◎日仏文化交流誌『フランス・ジャポン』を多方面から検証◎

2011年12月刊行予定

満鉄と日仏文化交流誌『フランス・ジャポン』

[編者] 和田桂子/松崎=プティマンジャン・碩子/和田博文 ●定価7,140円(本体6,800円)

A5判上製

- I 満鉄と日仏文化交流誌『フランス・ジャポン』(和田桂子)
- II 満鉄—中国東北部からフランスへ 1906—1945 シベリア鉄道でヨーロッパに向かった日本人(和田博文) 満洲から見たフランス(小泉京美) 満鉄と坂本直道(植村隆)
- III 『フランス・ジャポン』の政治学 1934—1945 対外宣伝誌としての『フランス・ジャポン』(渋谷豊) 『フランス・ジャポン』と日本事情(畑浩一郎) 『フランス・ジャポン』と満洲事情(杉田千里) 『フランス・ジャポン』の日本人執筆者(田口亜紀) 『フランス・ジャポン』の外国人執筆者(朝比奈美知子) 小松清とフランス人民戦線派(石田仁志)
- IV 二〇世紀前半のパリの日本イメージ 1901—1945 松尾邦之助と日仏文化交流(金子美都子) パリ大学日本学研究所と「日本文化」(松崎=プティマンジャン・碩子) フランス俳諧詩人の「日本」(柴田依子) ギメ美術館と「日本文化」—「友の会」を中心に(長谷川=Sockeel・正子) 一九三〇年代のフランス・メディアの「日本」(中村賢) フランス語に翻訳された「日本文化」(南明日香)
- V 資料編 日仏同志会資料(「日仏同志会役員及会員姓名表」「日仏同志会臨時総会議事録」と解題(和田博文) 「巴里日仏協会会報」総目次と解題(フリドマン・日出子) 関連年表(和田桂子) 『フランス・ジャポン』総目次(仏語/日本語) 『フランス・ジャポン』人名索引/本書人名索引



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
<http://www.yumani.co.jp/>
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方

日仏関係史、日本近代史・植民地史・メディア史などの研究者、大学・公共図書館ほか。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493

年 月 日

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

FRANCE-JAPON 全7巻

揃定価205,800円(本体196,000円)
ISBN978-4-8433-3695-3 C3321

送料

取扱店

ご注文書

お名前

ご住所

TEL ()

